

2008年9月16日

昭和電線ホールディングス株式会社

(コード番号 5805)

2008年 昭和電線グループCSR報告書

昭和電線ホールディングス株式会社（取締役社長 富井俊夫）は、「CSR報告書」として、2007年度の昭和電線グループの社会への取り組みならびに環境保全活動をCSR（企業の社会的責任）の観点からとりまとめました。

当社の新たな経営目標である新中期経営計画「GLOBAL SWCC 2010」を紹介し、「信頼」されるSWCCブランドを浸透させる取り組みとして、CSR活動、品質向上、人権・雇用、安全・衛生、地域との関わりなど「社会・経済報告」と「環境報告」として、中長期の環境目標や地球温暖化防止、資源の有効活用、環境配慮型製品の開発の成果などの紹介をしています。また、今回も巻末に第三者意見も掲載し、継続的な改善を進めています。

【主なトピックス】

1. 社会的な取り組み

- ・ CSR活動： CSR活動の推進体制、内部通報制度、BCP（事業継続計画）対策社内報リニューアル、情報セキュリティ推進体制の整備
- ・ 品質向上： 技能伝承の取り組みやSPS（Showa Production System）の成果
- ・ 人権・雇用： 従業員のメンタルヘルス、社内アンケートの実施
- ・ 安全・衛生： カッターナイフ全廃活動、リスクアセスメントの実施
- ・ 地域コミュニケーション： キッズISO14000プログラムへの参加

2. 環境への取り組み

- ・ グループのCO₂排出量削減の中長期目標（2015年度）の設定

- | |
|--|
| 1) エネルギー使用量（CO ₂ 換算）を1990年度比 25%以上削減する。 |
| 2) エネルギー原単位を1990年度比 35%以上低減する。 |

- ・ 環境配慮型製品の開発 ①熱電変換素子 ②高温超電導
- ・ 物流やオフィスでの環境負荷低減の活動紹介
- ・ 2007年度のマイルストーンは、エネルギー原単位の改善、ゼロエミッション、環境配慮製品の拡大等の項目でクリアしました。

3. 環境会計

2007年度の環境会計は、銅価格の上昇により「銅の回収、再資源により得られた収入額」が増加し、経済効果は前年度4,406百万円から5,921百万円と改善しました。

グループ全体 (単位:百万円)	2007年度		2006年度	
	投資額	費用	投資額	費用
環境保全コスト	408	1,061	245	925
経済効果	5,921		4,406	

以上

この件に関するお問合せは、下記宛にお願いします。
人事総務統括部 広報課 03-5532-1911

